

令和2年4月7日

丸森町大内地区地域おこし協力隊  
三浦 昌志

## 令和元年度文京学院大学実習生受け入れ報告書

### 1、実施目的

- ・現在、大内地区の魅力や課題点を明確化出来ていない現状である。その対策として若い学生に来てもらい、ワカモノ、ソトモノの視点で魅力や課題点を明確化してもらい、そこから企画案の作成をしてもらう。
- ・地方での実習は学生の社会人基礎力が身につくのはもちろんですが、地域の方も学生と交流を行うことで町の魅力や課題点を再認識し新たな知見を得る場となる。
- ・また外からの目線が入ることで、マンネリしていた考えに新たな風が吹き、新しい取り組みを行うようになり、町の活性化や交流人口増加にも繋がる。

### 2、募集方法、選考方法及び参加者

- ・募集方法：授業の実習候補地一覧に名前を記載して頂いた。
- ・選考方法：応募者から調書を頂きこちらで選考を行いテレビ会議で最終決定を行った。
- ・参加者：2019年08月10日～09月06日 五十嵐 弘明くん、大内 和奏さん  
2020年02月11日～02月24日 塚本 菜摘さん、橋本 優花さん  
2020年02月25日～03月08日 中館 莉子さん、福山 小夏さん

### 3、開催場所

- ・大内地区協議会(宮城県伊具郡丸森町)

### 4、テーマ

「まちづくり・田舎暮らし」

## 5、プログラム

○2019年8月11日～9月6日

2019年（令和元年）8月11日～9月6日	
	内容：目的
1週目	<ul style="list-style-type: none"><li>・町を知ってもらう：三浦の案内を受けつつ、目で見て町を知ってもらう</li><li>・魅力や課題点を考えてもらう：若者の目線で魅力や課題点を考えてもらう</li></ul>
2週目	<ul style="list-style-type: none"><li>・町を知ってもらう：地域の方との交流を通じて町を知ってもらう</li><li>・魅力や課題点を洗い出してもらう：色々な人との交流を通じて魅力や課題点を洗い出してもらう</li><li>・魅力や課題点に対しての企画案作成</li></ul>
3週目	<ul style="list-style-type: none"><li>・魅力や課題点に対しての企画案作成</li><li>・企画案の実施</li></ul>
4週目	<ul style="list-style-type: none"><li>・報告会資料作成：報告会に向けた資料作成</li><li>・報告会：1ヶ月滞在して感じたことを地域の方や役場に発表を行う</li></ul>

○2020年2月11日～2月24日、2月25日～3月8日

2020年（令和2年）2月11日～2月24日、2月25日～3月8日	
	内容：目的
1週目	<ul style="list-style-type: none"><li>・町を知ってもらう：地域の方と交流をしながら町を知ってもらう</li><li>・魅力や課題点を考えてもらう：若者の目線で魅力や課題点を考えてもらう</li></ul>
2週目	<ul style="list-style-type: none"><li>・町を知ってもらう：地域の方と交流をしながら町を知ってもらう</li><li>・企画案作成：魅力や課題点を明確化にし、それをもとに企画案作成をしてもらう</li><li>・事務所内報告会：2週間滞在して感じたことや企画案を発表してもらう</li></ul>

## 6、魅力と課題

○地域の方が感じる魅力・課題(インタビュー回答をもとに作成)

地域の方が感じる魅力・課題			
地域の方が感じる魅力		地域の方が感じる課題	
自然(緑、水、星、山、紅葉)が豊か	11票	少子高齢化	12票
人が温かい (外から来た人にフレンドリーだったり、みんな協力的)	10票	人口減少	8票
郷土愛がある人が多い	6票	インフラ整備が足りない	6票
繋がりが強い、大切にしている	5票	若い人が就職などで町から出ていく	4票
食べ物がおいしい	4票	若い人が地域活動に参加していない	3票
高齢者が元気	4票	農業後継者不足	3票
横の繋がりが強い	4票		

○大学生が感じた魅力・課題(振り返りをもとに作成)

大学生が感じた魅力・課題			
大学生が感じた魅力		大学生が感じた課題	
人が優しい、温かい (初対面でも話してくれた、家族のよう)	6票	車がないと不便 (買い物もいけない高齢ドライバーも多い)	5票
野菜が新鮮でお米もおいしい	6票	土地はあるのに活用していない (畑や建物含めて)	4票
自然が豊か(水、星がきれい)	5票	空き家が多い	4票
たくさん見どころがある (阿武隈川、キャンプ場、直売所、神社など)	5票	知名度が低い	2票
個性のある人が多く話を聞いて面白い (1聞いたら10教えてくれる)	3票	地場製品のPRが弱い	2票
		本来の丸森を知らない (被災地というイメージ)	2票
		人が少ない (農業後継者不足)	2票
		商店やカフェなどが少ない	2票
		わくわくが足りない	2票

## 7、考察

- ・丸森町の魅力で、住民は自然が豊かとどこでもあるようなことを言っていたが、大学生は人柄の良さ、新鮮な野菜など都会と比べての違いを言っていた。
- ・丸森町の課題で、住民は少子高齢化、人口減少などを言っていたが、大学生は自然豊かな土地なのに活用できていなくてもったいない、情報発信力が弱いなど学生ならではの意見を言っていた。
- ・大学生は報連相をどういう風に行うべきか分からない部分が多く、そのためコミュニケーションの相違が生じてしまった。
- ・私自身大学生を受け入れることでスケジュール管理や企画案の作成方法などを教えることで自分自身も成長をすることが出来たが、学生自身がどこまで行えるのか、どこをゴール設定にするか考えられていない部分があったためそこは反省点であった。

## 8、実施結果

### ○丸森町

- ・魅力や課題の再認識をすることが出来た。
- ・新たな考え方や企画を出してもらうことで、新たな知見が広がった。
- ・大学生と交流を行うことで対応した方の成長にもつながった

### ○大学生

- ・丸森に来てコミュニケーション能力、パソコンスキル、企画力を学んでいった。
- ・社会人になってからの生活リズムを体験することで規則正しい生活を送っていった。
- ・本来の丸森町や良さを伝えてほしいという意見が出た。

## 9、今後の取り組みに関して

### ○実習生の受け入れに関して

- ・現在は母校の大学のみ受け入れを行っているが、別の大学も受け入れることが出来ると企画案を実際に動くために進められる。そのためには他専攻の知識等も必要になってくると思う。
- ・大学生と地域を繋ぐ役割をすることで関係人口増加に繋がり私自身も成長が出来るため、今後も母校の受け入れを行いつつ、他大学の受け入れが行えるように広げていきたい。

### ○課題点

- ・地域おこし協力隊任期終了後に受け入れる際は人件費をもらえるようにする必要がある。それはどこの補助金を使うのか、どこから受け入れ費などを頂くのか考える必要がある。
- ・ホームステイをすると地域の現状や暮らし方を知れるため行ってはいるが、受け入れ農家が少ないため拡大をしていかないといけない。また親の介護をしていて行えない世帯も多いのが現状。
- ・コロナウイルスの影響で外部からの受け入れを今年度行えるのか検討する必要がある。